

## I 北海道における自殺の現状

厚生労働省人口動態統計によると、全国の自殺死亡数は、平成9年の23,494人（男性15,901人、女性7,593人）から平成10年に31,755人（男性22,349人、女性9,406人）と急増している。年齢別性別にみると、45～69歳の中年男性の自殺死亡数の増加によるところが大きい。

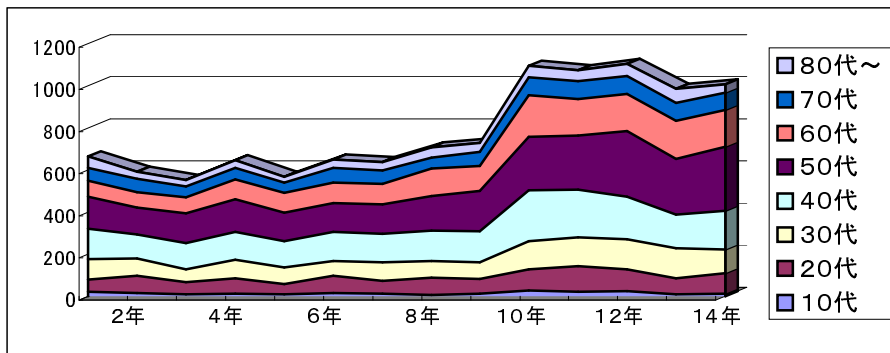
自殺の原因・動機としては、健康問題が最も多く、経済・生活問題、家庭問題がこれに続いている（警察庁「自殺の概要」）。特に、平成10年においては、経済・生活問題、勤務問題を動機とした自殺や無職者の自殺が顕著に増加している。一方、生命的危険性の高い手段により自殺を図ったものの幸い救命された者の中で、うつ病、統合失調症（精神分裂病）、アルコールや薬物による精神や行動の障害等の精神疾患を有する者の割合は75%を占め、中でもうつ病の割合が高いという研究報告があり、自殺は精神疾患と強い相関関係があることが示唆されている。

北海道における自殺の現状については、平成9年の自殺者数は1,114人であったが、平成10年には1,517人に急増し、以後1,500人前後で推移し、平成14年は1,391人であった。

また、本道における、平成10年から12年の自殺率（人口10万対）は、平成元年から7年の自殺率と比較して、男性で1.7倍、女性で1.2倍に増加している。この増加率を都道府県別の順位でみると、男性で第3位、女性で第10位となっており、最近の本道の自殺増加には、全国的にみても著しいものがある。

また、平成14年の自殺者の内訳をみると、男性の自殺者は1千人を超え、女性の約2.5倍となっており、特に、30代から60代男性の自殺の多さが目立ち、男性自殺者の7割強、自殺者全体に対しては5割強を占めている。

<北海道における男性自殺者数の10歳年齢階級別年次推移>



\*女性自殺者については、ここ15年間、年300～400人で横ばい